るに至りしものなるべし。此の後甘州の回鶻は昭宗の時又兵を率ゐて唐の國難を救はんことを申出づるに至りし〔二五四〕が、然も唐代に於て、遂に大なる勢力を得るに至らざりしこと、兩唐書の記載に見ゆるが如し。〔二五五〕

新唐書回鶻傳は最後に西州卽ち高昌の地方に據るに至りし回鶻の一支に就きて

懿宗時大酋僕固俊、〔二五六〕自北庭擊吐蕃、斬論尙熱、盡取西州輪臺等城、使達干米懷玉朝、且獻俘、因請命、詔可、其後王室亂、貢會不常、史亡其傳

と記せり、僕固俊の名は此の時に至る迄見えざれども、少くとも此の頃に於て北庭地方に回鶻の一部の居りしことは、前項に見たるが如く、會昌二年十月黠戛斯の使の述べたる所によるも疑無ければ、思ふに僕固俊は此の一部の酋首なりしものなるべし、而して僕固俊が斬りしと曰ふ論尙熱とは、唐書吐蕃傳に據れば、其の宰相尙恐熱を曰へるに外ならずして、實に咸通七年（八六六年）の事なりとす、卽ち同傳には此の事を記して

七年北庭回鶻僕固俊、擊取西州、收諸部、鄯州城使張季顒、與尙恐熱戰破之、……會僕固俊與吐蕃大戰、斬恐熱、首傳京師

と見え、之に據りて考ふれば、當時高昌輪臺等の地方は吐蕃の勢力の下に在りたるものなること疑無く、僕固俊は機を見て北庭より南下し、此等の地を奪ひ、尙恐熱と戰ひて之を殺すに至りしものなりとす、高昌傑氏家傳にも此の次第を載せて

後徙居北庭、北庭者今之別失八里城也、會高昌國微、乃併取高昌而有之

と記せり、此の後此の一部が勢力を發展し、高昌の回鶻の名を以て東西の記錄に載せらるゝは、有名なる事なりと